

## 調査報告 6

## 上海市の卸売市場実態調査報告

中村学園大学 流通科学部

徐 涛

中村学園大学 流通科学研究所

客員研究員 小林 修

## 1. はじめに

本報告書は、中村学園大学流通科学研究所の2008年度共同研究調査として、中国上海市の上海市江橋批発市場経営管理有限公司とその所属卸売市場—江橋市場（以下江橋市場と略す）を訪問し、同公司総経理孫頌偉氏・常務副総経理李光集氏の説明を得て、その後実態調査及びヒアリングを行った上で、まとめたものである。なお、説明の補足として、一部の資料・データは上海市農産物流通に関する先行研究から引用・参考したものを付け加えている。

## 2. 江橋卸売市場の概要

江橋市場は、1994年に設立され、上海市国有资产监督管理委员会が出資・管轄する国有企業である上海蔬菜（集団）有限公司の100%持ち株所有の子会社であり、総資産2.6億元<sup>1</sup>の国有卸売市場である。敷地面積は20万 m<sup>2</sup>あり、従業員数は約600名を有している。同市場には本市場1カ所、分市場2カ所、配送販売部、冷蔵部、果実食肉部、サービス部、駐車場、経理センター、検査センターなどの部門や施設がある。主な取扱業務は野菜、食肉、食料、油、冷凍食品、果実などの農産物卸売業務と配送、冷蔵設備の提供などである。2つの分市場は主に穀物を取り扱っている。2007年度同市場の食用農産物取扱高は177.22万トン（うち140万トン以上は本市場扱いである）。そのうち、野菜が148万トンに達しており、上海市の消費総額の60%以上を占めている。同年度の利益は4721万



## 市場の主な部門と施設

出所：同市場のパフレットより

元であり、納税総額は2170万元である。なお、2008年上半期の食用農産物取扱高は90.83万トンに達し、そのうち野菜73.16万トン、その他の農産物17.67万トンである。前年同時期に比べ、10.67万トン増で13.31%と大幅の増加傾向にある。すでに同市場は上海市の野菜取引において最大の農産物卸売市場となっている。



江橋市場正門

出所：同市場のパフレットより

## 2. 市場内の取引、運営と管理について

江橋市場は経営理念として、「高効流通為農民、安全誠信為市民」（高い効率の流通は農民のため、安全と信頼は市民のため）を掲げている。それに加えて、合理的な価格と、全国からの集荷による安定した市場運営を目指している。



市場内、全国各地から到着したトラック

出所：筆者が撮影

同市場の野菜等の農産物は、地元の上海産が2～3%しかなく、台湾を含みチベットを除く全国各地からの入荷量が大部分を占めている。

また、江橋市場は上海市取扱量最大の一次卸売市場である（ちなみに敷地面積では江楊市場が最大である）。政府から農産物の安全性などの対応について注目される一方、市場のマネージメント、環境対策、国内の政府関係者や国際交流関係の視察団体への対応などについても積極的に役割を果たすように期待されている。

市場内の取引は主に相対取引である。手数料に関しては、野菜は売上に対し4%、穀物はコーナーの賃貸料、肉は施設レンタル料と売上の0.2～0.3%、果実は、売場のコーナーレンタル料方式と対売上高口銭方式の両方がある。

具体的には、野菜を例にすると、以下の2種類の方法で手数料を計算し徴収している。①当日取引した売買双方がそれぞれ持つ取引電子カー

ド（図1を参照）によって、決済する際に、自動的にコンピュータによって、売上高が計算され、手数料が引かれる仕組みである。キャッシュカード的な機能を果たしている。②貨物を積んだトラックが入場する際に地面に設置している大型秤で貨物の重量を測り、その重量と同商品の前日の平均単価をかけると、おおよその売上高がわかる。その売上高の4%を売り手によって経理センターで一括支払う仕組みである。この時は上記の取引電子カード、或いは現金で支払うこととなっている。

図1 江橋市場の取引カードの使用図



出所：筆者が聞き取り調査により作成。

ただし、一部の食糧（米、玄米）の取引については、電子競売を使用している。これは主に政府備蓄米用で、4年に1度の入れ替えが必要であるため、放出米の取引用として電子競売システムが使われている。

同市場では、集荷商人や生産者が売り手側として農産品を持ち込んでくる。長期安定した業者（少ないが）と短期業者（流動的或いはシーズン性商品を扱う）を合わせて6000社ある。傾向としては、昔は生産者よりの直接持ち込みが多かったが、現在では大産地の集荷商人の比率が高くなってきている。

入荷してくる業者の配車システムは、全て業者任せである。どのような商品が入ってくるかは、トラックが入口に着いた時点ではじめてわ



市場内野菜売場

出所：同市場のパフレットより

かり、そこで行先を振り分ける。一般に、20tトラック（18m～21m）が多い、1回につき時間制限なく一律に5元を徴収している。経理センターでの電子決済は昼の12時から夜の10時まで取り扱っていて、市場の取引時間は12～16時で夕方4時から5時までがピークになる。夜12:00以降は中小卸売市場への運び出し作業となる。

買手には仲卸（2次卸）業者、配送センター、外食大手企業、ホテルやスーパーなどの小売店がある。

同市場は国と上海市の卸売市場管理条例にしたがって運営することになっているため、政府の厳しい監督下にある。現在、上海市の人口とマーケットの拡大により、卸売市場の取扱高は、年々安定した拡大傾向にある。

### 3. 農産物安全性対策について

江橋市場は1988年以降、政府が実施した「野菜かごプロジェクト」<sup>2</sup> に合わせて、国家商業部と上海市との協力で、プロジェクトに対応するため1994年に開業したものである。したがって、近年農産物の衛生・安全管理問題に対応するため、積極的に取り組んでいる。市場内には検査センターが設置されており、入荷した野菜や肉などはすべて検査が義務づけられている。具体的には毎日農産物に関して、300以上のサンプルを即時検査し、パスした商品しか売こ



市場内に検査センター

出所：同市場のパフレットより

とができないように徹底されている。また、もし即時検査（定性検査）で有機リンなどの有害物質が発見された場合、さらに定量検査を加え、詳しい分析をする工程となっている。いずれにしても商品に問題発生した場合、業者との事前取り決めにより、廃棄処分をするという。同市場によると、2008年上半期で農産物に関して61408件のサンプリング検査を実施しており、合格率は99.2%に達しているという。そのうち、食肉類は100%合格している。廃棄された商品は6.15トンである。

なお、それ以外に同市場は内モンゴルや江蘇省南通市や浙江省平湖市などと協力して、安全検査協定を結び、産地での安全検査と結果共有に乗り出している。それらの施策により、不合格商品の排除に顕著な効果が現れているという。

さらに政府の指導に沿った市場内のシステムの構築によって、すでに食肉のトレーサビリティは確立済みであり、野菜などの農産物について

も全て追跡システムがあるという。

#### 4. 取引環境の整備—緑色卸売市場認定<sup>3</sup>について

2005年11月江橋市場は国から緑色卸売市場の認定を受けた。認証基準から中国における流通組織は3つに分けることができる。最も認証基準が高いのは、1999年に施行された緑色市場認証制度（緑色卸売市場認証制度と緑色小売市場認証制度）である。2007年末時点で、中国で認証された緑色卸売市場は55カ所に過ぎない。1999年に中国政府の提出した「三緑工程」が、流通組織再編の始まりとなった。「三緑工程」は、「緑の通り道を拓き、緑の市場を育て、緑の消費を提唱する」という意味で、食品流通の効率化、環境への配慮、食品の質と安全性の向上を目的とし、消費者の食品安全意識を高め、健全な卸売市場と小売市場への再編と運送ネットの構築を目的とするプロジェクトである。その中では、流通組織と小売市場への再編に関して、「緑色市場」という概念が提唱された。緑色市場とは、緑色市場の基準に従って、卸売市場と小売市場のハードとソフトの両面を整備し、様々な方式で不合格商品を追放し、食品品質を確保できる「緑色食品」と「有機食品」を流通する市場を育成するという考え方である。「緑色市場」の開設に関して、主に商務部、工商総局、国家認監委が管轄している。商務部が主管として、これを推進している。

江橋市場は、2005年に中国で初めての「緑色卸売市場」に認証された。認証翌年の年間野菜取引量は前年より20万トン増えた。2007年に野菜の取引量は147万トンで上海市の第1位となった。さらに、緑色市場の認証を契機に、同市場の規模は拡大し全国レベルの卸売市場となり、上海市内の他卸売市場からの入荷先にもなっている。

同市場への聞き取り調査によれば、緑色卸売市場の認定申請した理由は、①国有大型1次卸

売市場としての責任、②食品安全面の対応におけるリーダー的な存在としての責任、を果たすためであるという。しかし、認定に対して、同市場は大きな投資をしたが、そのメリットは目に見えてきていないという。市民、消費者に十分認知されていないという。

認定については、食品安全、取引形態、マネジメントシステムが完備していることが要求されるので、人件費もかさみ年間数100万円の経費増になっている。

#### 5. おわり

江橋市場は、1994年に設立された後、すでに上海では野菜取引が年間最大の農産物卸売市場になっている。中国の国情に合わせて、国内外のノウハウや経験を吸収する一方、食品衛生・安全対策にも対応しつつ、国有卸売市場の自覚と、独自の経営理念により運営されている。同市場は上海という大都市に立地し、経済成長によるマーケットの拡大とともに安定した成長が期待できる。

一方、巨大な中国流通市場において再編や統合などの動きがある中で、制度の変更による大きな変革が要請されていることも事実である。しかし、新しい改革や制度の導入効果が、市場の売上や取引量の増加などに迅速かつ直接反映できるかが懸念される。なお、同市場では産地での農産物の安全検査と結果の情報共有についてはまだ一部の地域に止まっており、その体制の整備を全国レベルに拡大することが江橋市場にとっては、これからの課題になるだろう。これらの問題や動向については今後我々の研究においても関心の持つところである。

#### 【注】

1. 1元＝約15円
2. 1988年に当時の上海市書記江沢民が提唱した生鮮食料品安定供給計画「菜藍子工程」（野菜かごプロジェクト）である。野菜かご

プロジェクトとは副食品の安定供給のために生産、流通の新システムを構築することである。

3. 江橋市場の緑色卸売市場認定に関する記述

の初出は「中国における卸売市場の認証制度についての考察」（徐涛、謝文婷）『流通科学研究』VOL.8 NO.1 September, 2008である。